

本書の初版は1990年に発刊されました。たかが15年前と思われそうですが、初版の当時は、病理組織学と細胞診断学とを有機的に結び付け、分かりやすく解説した教科書は他にみられず、国内で細胞診を“学ぶ”人たちの新しいスタイルの教科書として好評をもって迎えられました。その後、国内・国外の細胞診領域での進歩にあわせて、今日までの15年間に3回の改訂が行われ、今回の第4版に至っています。

今回の改訂に携わった執筆者のうち、6名の病理医は細胞診断学に造詣が深く、細胞診専門医・指導医として細胞検査士の教育に深い経験と理解をもたれている方々です。また6名の細胞検査士は全員、癌研究会附属病院に所属し、細胞診の第一線で活躍されているとともに、細胞検査士の教育に多年の経験を蓄積されている方々です。これらの筆者の方々が編集と執筆を担当された坂本穆彦教授の意向のもとで、細胞診の基本から応用までのすべての領域について過不足なく、また初心者にも理解しやすいように解説されています。

序論に相当する細胞診の役割、現状と展望、検査体制については全面的に書き直され、細胞診の将来展望、医師、検査技師の専門資格としての細胞診の検査体制が具体的に紹介されています。総論の部分では、先に書かれた細胞診の将来展望をふまえて、術中迅速細胞診、デジタルカメラを用いた写真撮

影、判定と報告の項目が新規に追加され、検体採取器具についても新しい器具がカラー写真で紹介されています。

各論の部分では今までの大きな流れを尊重し、“癌(腫瘍)取扱い規約”や表が最新の内容で組み直されるとともに、2色刷となり、その配置もより見やすくなりました。参考文献もほぼ倍加し、現在国内で細胞診を学ぶために使われている教科書のみならず、海外での標準的なテキストも網羅されおり、より深く学ぶためのガイドとなりました。さらに、カラー写真索引が今回の版から掲載され、細胞診カラーアトラスに近い使い方もできるようになりました。この点は坂本先生が著された『臨床細胞診断学アトラス』が絶版で入手困難な現在、細胞検査士をめざす人々に対する暖かい心遣いを感じられます。

現在、細胞診に関して比較的新しい内容の教科書は国内に数種ありますが、本書のように細胞検査士や細胞診専門医・指導医をめざす人々の教科書として版を重ね、最新の内容で充実感のある教科書は他に類をみないものです。编者、著者の大変なご努力によって改訂されたこの『細胞診を学ぶ人のために 第4版』を細胞診断学に携わる方々の必携の書としてぜひお勧めしたいと思います。

(B5判 392頁 定価10,290円(本体9,800円+税5%))
2005年 医学書院 刊